



Title	Quick accomplishment and responsiveness were associated with a lower risk of mortality from cardiovascular disease among Japanese older men: the Japan Collaborative Cohort Study
Author(s)	森脇, 美優
Citation	大阪大学, 2025, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/103100">https://hdl.handle.net/11094/103100</a>
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed</a> をご参照ください。

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

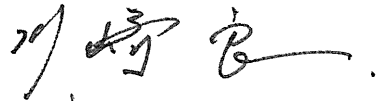
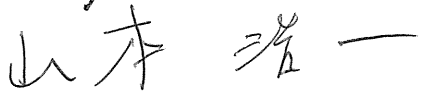
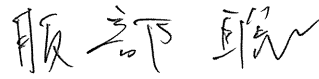
The University of Osaka

# 論文内容の要旨

## Synopsis of Thesis

氏 名 Name	森脇 美優
論文題名 Title	Quick accomplishment and responsiveness were associated with a lower risk of mortality from cardiovascular disease among Japanese older men: the Japan Collaborative Cohort Study (循環器疾患死亡と行動特性としての“Quick accomplishment”と“Responsiveness”の関係性の検討 : JACC研究)
論文内容の要旨 〔目 的(Objective)〕 Quick accomplishment (迅速に仕事を完遂する特性)やResponsiveness (迅速な意思決定を行う特性)は、時間管理に関する行動特性であり、「時間を有効に使っている」という肯定的な心理状態と関係する。近年、肯定的な心理状態が循環器疾患 (CVD) と関連することが示唆されているが、時間管理特性とCVD死亡との関連を検討した研究は少ない。そこで本研究では、日本人の成人男女を対象とした前向きコホートを用いて、Quick accomplishmentおよびResponsivenessとCVD死亡リスクとの関連を明らかにすることを目的とした。  〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 本研究は、1988～1990年に開始されたJACC Study (Japan Collaborative Cohort Study for Evaluation of Cancer Risks) のデータを用いた。ベースライン時にがんまたはCVDの既往がある者、問診票で時間管理特性のデータが欠損していた者を除外し、最終的に75,049名 (男性30,901名、女性44,148名) を解析対象とした。Quick accomplishmentおよびResponsivenessは自記式問診票により評価し、それぞれの有無で二群に、さらに組み合わせによって四群に分類した。CVD死亡リスクについて、年齢や生活習慣などを調整したCox比例ハザードモデルにより、性別および年齢層別にハザード比 (HRs) と95%信頼区間 (CIs) を算出した。調整因子には年齢・BMI・高血圧、糖尿病既往・喫煙・飲酒・運動習慣・歩行習慣・学歴・雇用状況・ストレス・いきがい・人生を楽しむ・怒りやすいを使用した。追跡は2009年末まで行われ、CVD死亡はICD-10コード (I01-I99) に基づいて分類された。多変量調整後、Quick accomplishmentは女性においてCVD死亡リスクの有意な低下と関連し (HR: 0.91, 95%CI: 0.83-0.99)、男性では同様の傾向はみられたが有意な関連は見られなかった (HR: 0.93, 95%CI: 0.86-1.01)。一方、Responsivenessは男女ともにCVD死亡との有意な関連を示さなかった。四群の解析では、Quick accomplishmentおよびResponsivenessの両特性を併せ持つ群では、男性において有意なリスク低下が認められ (HR: 0.88, 95%CI: 0.78-0.99)、女性では同様の傾向はあったものの有意ではなかった (HR: 0.92, 95%CI: 0.80-1.05)。年齢層別解析では、両者を有する60-79歳の男性において、CVD死亡リスクの低下が顕著であった (HR: 0.83, 95%CI: 0.72-0.96)。女性では年齢による影響の差はみられなかった。  〔総 括(Conclusion)〕 本研究により、Quick accomplishmentおよびResponsivenessは、循環器疾患による死亡リスクの低下と関連する可能性が示された。この関連は性別・年齢層で異なることが示唆され、男性、特に、60-79歳の高齢者でより顕著であった。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名)				森脇 美優	
論文審査担当者	(職)	氏	名		
	主 査	大阪大学教授			署 名
	副 査	大阪大学教授			署 名
	副 査	大阪大学教授			署 名
論文審査の結果の要旨					
<p>本研究では、行動特性として、迅速に仕事を完遂する特性、迅速な意思決定を行う特性に注目し、時間を管理することで時間を有効に使っているという肯定的な心理状態、自己効力感が得られるという仮説のもと、循環器疾患のリスクとの関連を明らかにした。大規模かつ長期にわたる追跡を行ったコホート研究で、特に男性、そして、60歳から79歳の高齢者において、迅速に仕事を完遂する特性と迅速な意思決定を行う特性を有する群で循環器死亡リスクが低いという興味深い結果を明らかにした。このような関連が我が国の大規模集団で明らかになったことは高齢化社会における循環器リスク評価において重要な示唆を与えるものであり、博士（医学）の学位授与に値する。</p>					